

H30-2-7日(水) 兵庫県たつの市「自立のまちづくり事業」について

たつの市は、山から海までの細長い地形の中に、78千人の人口である。

この地域産業は、醤油であるという事と地理の授業で学ぶ知識として

持つ。たつの市が今では合併もあり、「龍野」から「たつの」とひらたの市名となる。その上全国的に知名度がある特産品「精肉及糸」もたつの市の名産となっている。

11月にも家庭の食卓等に販入めさせている。本竜野駅に降り立つとぶーんと

醤油の臭いがたつてきた。さすがと思、たのは私だけか。このたつの市は姫路

より30分余の列車で到着する。姫路のハットラインに良いのは、と勝手に想像して

いた人が「お概要の説明の中で、合併時83千だったのが、現在78千人に減った

という事である。さて「自立のまちづくり」についてであるが、「住みたく住ります、住み

続けたく住ります」という文句に、「自ら考へ自ら行動する、モットーは「見せよう

「示そう、市民の活力」として、9つのメニューに対して、自ら行動する住民が地域

貢献活動団体と立ち上げ、年間10万円から30万円の補助金を提供する。という事

である。地域のことば、地域が一歩良くなる、であり、例えば、道路に穴が

あったという時でも地域住民が活動して補修をするという。これに対しての

補助金を申請により支給するもの。H29年の予算は、9メニューに対して、26730万円

となっている。公共施設の補修、美化等の活動として、生活道路のコンクリート

舗装等、美化等活動として、市道の草刈など、空き家対策の活動など、その

事業内容を申請する。現地確認等の後、支援決定通知書を受取るといふ手順

で、事業の実施が行われる。この為の市民への啓発は...との質問に対しては

トップが住民に対して、これからは地域が一歩良くなる、住みやすい地域を作

りたいといける。旨の話を絶えず行っているという。知立市の現状を見ると

地域でやる力は乏しく、「とれ強新カチれ」という状況にあり、主旨は正しいが

その力を引き出すのは、なかなか難しい。ある旨の質問をし、粗末はどの問

には、苦笑いで「明解」は、得るから、た、これからは「地域力」の育成だ」とい

うことは、理解出来ず中での達成には、住民の意識、連携、協力という

事の方が音でゆかなくはない、確かなPR、啓発が、必要である。

トップが意識しているものが、市の将来を動かしてゆくものと思わせぬ視察で

あった。

H30年2月8日(木) 岡山県津山市「鉄道近代遺産活用」の観光振興策について
津山市は昔から一倉1? 岡山県美作地方の拠点と1? 政治、経済、文化の中心
的役割を担ってきた街であり、交通の要衝と1? 国道も4本が交差している。
知立市とも同じような事件を持っている。歴史や文化において、多くの観光
資源を有する街であり、この街の市議会にも1? H25年9月観光立市の
宣言が決議された。観光立市の目的は、連山市を「訪れたいまち、住みたい
まち」とすることであり、先人の歴史的な文化を継承し、郷土に愛着と誇りを
持つとともに、活力ある地域社会を形成していくことで「観光立市」とする宣言
をした。当時考根と津山だけが牛肉を念へることを評されていた。昨年の
B組ケルメの大会で津優勝1区のは昔から当地で食されていた「ホルン
うどん」であり、又交通要衝と1? 機関車庫があり、この車庫自体の規模が
京都に次いで昭和11年当時で第2位であった。この機関車庫の取り
こわしが進められる中、H17年に調査を1? 市民主体で「観光協会」とを
立ち上げ、H19年1月保存、活用に取り組み始めた。これが今の「津山まほ
の鉄道館」となり、地元小中学校をはじめと1? 多くの観光客が訪れるよう
になった。現在は、土地はJR、運営は観光協会、市がサポートという形でイベント
などを行っており、京都鉄道博物館でもPRをして1? 10年で20040人の人
が訪れたという。絶えず新しい事をやってみようという訪問客は減り、しま
やってみなくてはならない。観光消費額を増やすことを考えていかなければ、
いけない。宿泊の場所が少なくて泊まらなくてお金を落してしまっている。
津山城などの名所をめぐると券を用途し、回遊してもらう事も行っている。1日200円
で乗り放題のバスチケットもある。又JRと「舞ましかスローライフ列車」を運行途中
停車時間も30分以上あり、下車して、地元の産物等を念へたり、空のイベント
を年2回行っているが大変好評である両の車輛が超満員との事。とにかく
ある資源の活用とアインPで「観光立市」の旗の元住民とともに、まちの活性化
に努めている。H28-4月には、観光振興課が去来、今や7名の人々が日々
住民とともに活躍している事。知立市の観光行政は11かぶ力、市域外の
確保には「観光」が一歩、地方創生において、大切との声を聞く。と注1と思
う。国の観光行政と相まると、当知立市も資源を11か1頁観光行政の組織の充実
強化が必要不可欠である。